

# 伊那谷リニアバレーNEWS

～長野県にリニアがやってくる！～

VOL.3 令和4年 4月8日発行

長野県 建設部 リニア整備推進局

TEL:026-235-7016

FAX:026-235-7482

E-MAIL:linear-kyoku@pref.nagano.lg.jp

## ■ 「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」を開催しました。

リニア中央新幹線の開業を見据えた地域づくりを検討するため、「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」を令和4年2月18日（金）にオンラインにて開催しました。「リニアバレー構想」策定後の社会の変化を踏まえ、同構想に加える新たな視点（アフターコロナ、DX、ゼロカーボン）と二次交通、企業誘致における取組の方向性と課題について議論しました。令和4年度は全体的な進め方を再検討し、取組の加速化につなげてまいります。

## ■ 「リニア開通効果を地域振興に活かすビジョン」について～南信州広域連合の取組～

南信州広域連合は、令和4年2月28日（月）にリニア時代の南信州地域の絵姿となる「南信州リニア未来ビジョン」を公表しました。今後は、この絵姿を地域づくりのイメージとして、「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマに、地域の方々と意見交換を行っていく予定です。

## ■ 公共交通分野でのCO<sub>2</sub>排出低減 ～伊那から減らそうCO<sub>2</sub>！～

伊那市では交通弱者支援として「ぐるっとタクシー（AI最適運行・自動配車サービス）」の運行を令和2年4月から市内一部地域で開始しました。タクシーならではのドアツードア運行や即応性による利便性の向上と、AIがリアルタイムに計算する乗合配車による効率的な運行を実現し、令和3年10月には市街地を除く市内全域での運行が始まりました。

こうした中、公共交通分野でのCO<sub>2</sub>排出量低減に向け国の地方創生推進交付金を活用し、運行車両のEV化によるCO<sub>2</sub>排出量削減と自然環境への負荷低減に向けた取組を進めています。

## ■ 遠山郷で空き家を利用してお試し住宅を整備しました～飯田市の取組～

飯田市南信濃まちづくり委員会では、県の地域発元気づくり支援金を活用して、空き家となっていた旧木沢駐在所を令和3年度に改修し、「遠山郷お試し住宅」として整備しました。今後は、移住希望者や遠山郷での暮らしに興味関心がある方に向けて、1か月以上の貸し出しを行っていく予定です。

お試し住宅の近くには、旧木沢小学校があり、地域の方々の交流の場となっていることから、遠山郷の地域を知ってもらえる適地として、募集を進めています。



飯田市 提供

## ■ 「丘の上結いスクエア」を新設します～飯田市の取組～

平成30年9月末に閉店した大型商業施設「旧ピアゴ飯田駅前店」を民間企業である飯田駅前プラザ株式会社が、新施設「丘の上結いスクエア」として令和4年5月19日(木)のオープンに向け準備を進めています。地下1階、地上5階建ての施設となっており、1階を商業エリア、2・3階を公共エリア、4・5階部分がオフィスとなります。入居する公共エリアでは、公民館のほか、図書館などあらゆる機能を持たせる予定です。様々な機能を集約し多様な人たちが集い交流することにより、新たな活動の場が生まれる「ヒト・モノ・コト」の創発の場を目指しています。



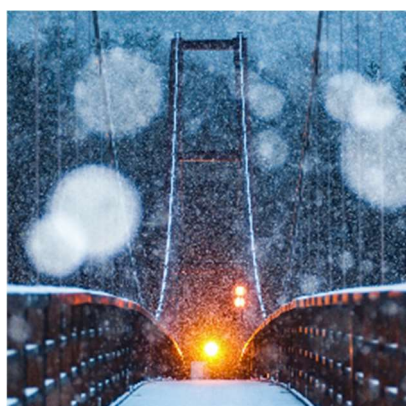
飯田駅前プラザ(株)提供

## ■ フォトコンテストで地域の魅力を発信！～宮田村・宮田村観光協会、天龍村・泰阜村の取組～

宮田村・村観光協会では、「2021年度宮田村フォトコンテスト」を実施しており、今回のテーマは「新発見！再発見！宮田村」とし、「写真部門」と「インスタグラム部門」2部門で募集しました。今後、入選作品は村・村観光協会のWEBサイトに利用される予定です。

天龍村でも、インスタグラムを活用した「天龍村フォトスポットグランプリ」を開催しました。このグランプリは、村内指定の4か所のいずれかで撮影された写真を村のインスタグラムアカウントへ指定された方法で投稿してもらうものです。審査結果は村公式インスタグラム・ホームページでご確認いただけます。

また、泰阜村においても、「あいパークやすおか」をテーマに開催したフォトコンテストを令和3年11月から令和4年1月末まで開催し、3月2日(水)に入選作品の発表が行われ、今後、入選作品は村の広報誌に掲載される予定です。



宮田村 最優秀賞作品  
(インスタグラム部門)



天龍村 最優秀賞作品



泰阜村 大賞作品

### ■ 人口増に向けた定住促進の支援制度を新設～飯島町の取組～

飯島町では、令和4年度から住宅を取得する場合、最大200万円の補助金を交付することとしています。対象となるのは、49歳以下で5年以上定住し、町に住民基本台帳の登録がある2人以上の世帯です。住宅は新築だけでなく、中古物件の取得も対象になるなど、これまでの町の補助制度より幅広く活用できる制度に改善しています。また、定住促進の他にも、「飯島町ワーケーション」やサテライトオフィスの事業化など、町から離れた若者が飯島町に戻って来られるきっかけづくりにも取り組んでいくとしています。

### ■ 信大農学部と連携協議会を開催～根羽村の取組～

根羽村と信州大学農学部は連携協定に基づく連携協議会を開催しました。この連携協定は、2011年（平成23年）3月に森林と里山の活用モデルの確立、水資源と流域の発展に向けて締結されたものであり、これまで約50件の取組を行ってまいりました。今回の協議会では、信大農学部の4人、根羽村の1人が成果を発表し、大久保村長は、「研究から実際に具体化した事業もあり、データも貴重。信州大学農学部との連携は村にとって大きなプラスになっている」と話しました。根羽村では、今後も信大農学部との連携を深めながら、村づくりの推進を行っていくとしています。

### ■ リニア中央新幹線に「7割が期待している」との結果が！～しんきんアンケート～

飯田信用金庫は、コロナウイルス蔓延のもとで、リニア中央新幹線に対するアンケートを実施（令和2年3月）しました。

アンケートでは、「リニア中央新幹線に期待しますか」というアンケートに対し、「期待している」が77.3%で前年度調査の77.8%とほぼ変わらない結果となりました。

「リニア中央新幹線に不安を感じますか」という設問では、「不安を感じる」が34.2%と、前年度調査の33.1%とやや上回っている結果となりました。

また、地域の声をお聞きすると、リニア中央新幹線への思いはコロナ前と変わらない結果となりました。なお、本アンケート調査の詳細については、今後、調査報告書に取りまとめる予定としています。

### ■ 増澤製作所（諏訪市）の「改良版ハイブリッド充電システム」が自走式標識車に採用

増澤製作所（諏訪市）で開発した改良版ハイブリッド充電システムが、中日本ハイウェイエンジニアリング東京で使用される自走式標識車に採用されました。このシステム開発は、諏訪市の「新技術・新製品開発事業補助金」を活用して開発されており、バッテリーに蓄えられた電力は、災害時に電力車としても活用することも可能となっています。

同社は、今後もリチウムイオン電池を搭載したシステムの受注も計画しており、企業として脱炭素に向けた取組を進めて行く方針です。

※自走式標識車：事故や工事など、次々と場所が移動する作業が交通の妨げにならないよう安全を確保し、後続の一般車両へ注意を促す為の標示をする車両

HP：<http://masuzawa-ss.co.jp>

### ■「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結～JR 東海、南アルプス食害対策協議会、長野県の取組～

JR 東海は、南アルプスの豊かな自然環境を守るため、高山植物の保護に取り組んでいる南アルプス食害対策協議会へ支援を申し出、令和4年4月1日から5年間にわたり、同協議会の活動を支援することとなりました。この支援により、防鹿柵の設置個所を拡大して、鹿の食害によるお花畑の消失や土砂流出を防ぐことで、南アルプスの自然環境保全をより一層推進していくことが期待されています。

### ■「森林（もり）の里親協定」を締結～JR 東海、大鹿村、長野県の取組～

JR 東海と大鹿村では、南アルプスの自然環境の保全をより一層推進するため、長野県の立ち会いのもと、「森林（もり）の里親協定」を締結しました。令和4年4月1日から5年間、JR 東海は大鹿村が取り組む森林づくりに必要な支援を行い、大鹿村は JR 東海からの支援を受け、村内の森林整備や森林の利活用など、南アルプス地域における森林づくりをより一層進めていきます。

このニュースレターでは、リニア中央新幹線の開業に向け、伊那谷地域等で展開されている地域振興の取組をまとめて、四半期毎に関係機関向けにご案内してまいります。紹介したい取組などがございましたら、長野県リニア整備推進局までお気軽に情報をお寄せくださいますようお願いいたします。（担当者）